

令和2年度 調布市立染地小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
あたたかく（多様な価値観・寛容） たくましく（自己肯定感・ねばり強さ） まえむきに（見通し・主体的に）関わろうとする子どもの育成	
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像, 教員像, 児童・生徒像	
「子供一人一人が大切にされていることを実感できる学校」の実現 ＊基礎的・基本的な学習内容を身に付け、子供が学ぶ楽しさを味わうことができる学校 ＊学校の課題を共通理解し、教職員一人一人が職層や経験、職務に応じ、組織の一員として能力を発揮できる学校 ＊常に学校を開き、保護者・地域と共に子どもを育てる学校	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	本校の子供たちは心優しく穏やかな気風がある。校内に留まらず、どこでも、もてる力を発揮できるよう、さらに長所を伸ばし可能性を引き出して、自信と活力をもたせていく。そのため、全ての教育活動において、実際の子供の姿に基づいたPDCAサイクルを確立するとともに、全教職員が深い児童理解に基づいた指導力を身に付ける。 ＊全国・都の学力調査の結果から、学力向上は最優先課題である。確かな学力の定着を図るための具体的な「染地学習スタイル」を創る。 ＊経営方針に基づいて、一人一人の職員に各自の職務において創造性を発揮させる。 ＊保護者・地域とのネットワークを効果的に活用した協力体制を構築する。

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な国語について、その特質を正確に理解し適切に扱う技能を身に付ける。 ・叙述（言葉）を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力を養い、人との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を養う。 ・言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い国語の大切さを自覚し、国語を尊重しその能力の向上を図る態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きの確実な習得に向けて、継続練習の意欲喚起と持続を図る取組として「漢字オリンピック」を全校で実施する。また、日常的な読み聞かせや読書活動により、語彙や語句に触れる機会を増やし、言葉への関心を高める。 ・文章や情報を読み取り、自分の思いや考えを書き表す活動を通して、順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養う。 ・1単位時間の授業において1回以上、児童の実態や学習内容に応じた形態で伝え合う活動を取り入れ、言語活動を工夫して行う。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や日本の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、歴史や伝統と文化を通して基礎基本となる社会生活について確実に理解する。また、資料や調べ学習を通して情報を適切にまとめる技能を身に付ける。 ・社会的事象の特色や関連、意味を多角的に考え、課題を捉える。解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の読み方や地図記号、都道府県名や生活環境を支える事業、国土の特色と産業、政治の仕組みと働きや大まかな歴史など社会を学習していく上で、基礎基本となる知識については、小テストの反復や学期、学年末の復習テストなどを通して、確実に定着させる。 ・土台となる知識をもとに、地図の読み取りや基礎的資料から適切な情報を選択などを行い、わかったことを説明し合ったり、話し合ったりしていく。また単元の振り返りを行い学習を通して、学んだことをまとめられるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を数理的に捉え、算数の視点から問題を見だし、それを自立的、協働的に解決する技能を身に付ける。 ・物事を関連付けて考察したり、他でも適用したりしようとする態度や新しいものを発見し物事を多角的に捉えようとする態度、具体物、図、式、表、グラフの数学的な表現を柔軟に用いて、事象を簡潔・明瞭・的確に表す力を養う。 ・算数の活動の楽しさやよさに気付き、よりよく問題解決しようとする態度や学びを生活や学習に活用しようとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各場面で言語活動を充実させ、作業的・体験的な活動など身体を使ったり、具体物を用いたりする活動を中心に行うことで、課題について考えたり、考えたことを説明したりするなどして学習の確実な定着を図る。 ・学習内容と既習事項とのつながりを意識し、関連付けた指導を行う。また、自分の考えを表現するのに適した方法を考え、実際にその表現を用いて説明することで、数学的な見方・考え方を養うとともに、課題に対して多角的に捉えることができるようにする。 ・日常の事象と結び付けたり、具体物で操作・作業をしたり、実際の数や量の大きさを実験・実測する体験的活動、表や図、グラフからきまりを発見する探究的な活動等を取り入れる。また、学習内容の振り返りの時間を設ける。

<p>理科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の学習内容や生活経験を基に、意欲をもって問題解決の学習に向かう力、人間性を養う。 ・問題解決の学習の過程を通して、自らの考えを大切にしながらも、他者の考えや意見を受け入れることができる態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の事物や現象を比較し、その差異点や共通点を捉える活動を行う。 ・自然の事物や現象同士を関係付けたり、既習の内容や生活経験と関係付けたりする活動を行う。また、自然の事物や現象に影響を与える要因を考え、条件を制御する活動や自然の事物や現象を多面的に考える活動を行う。
<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表現を深めていき、達成感を味わうことで、自己肯定感を高める。 ・楽器の音色、曲想の変化を聴き取り、感じたイメージとの関わりを考える力を養う。 ・指導者や子供同士の対話の中から、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。 ・お互いの演奏や作った作品を聴き合う活動を通して、自他を認め合う心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの児童も自分でもできそうだと感じられるように、スモールステップの観点で、学習過程を工夫していく。 ・鑑賞の授業では、細部まで聴き取ることのできる児童の記述を全体に共有させることで、共通事項や曲想に対する気づきを促し、クラス全体の意欲を高める。 ・歌唱や演奏の授業では、ペアやグループ学習を進めることで、互いに教え合い、表現力を高め合う場面を設定する。 ・少人数（あるいは一人）の発表の機会を設けたり、作品や考えを板書で紹介したりする。
<p>図画工作</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図工の活動全体のなかで、自分自身を表現することで、児童の自己肯定感を高める。 ・創造することの喜びを知る。 ・作品づくりをする中で自ら課題を見付け、解決する能力を培う。 ・お互いの作品の鑑賞を通して他を認めることにより、思いやりの心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が持つ特徴や良さを教師側がしっかりと把握し、そこを伸ばしていくような指導を行う。 ・創造的活動を促すような題材の工夫をする。 ・児童が自分自身で問題解決することを喜びと感じる題材を授業で行う。 ・授業の途中やまとめの時に必ず鑑賞の時間を設ける。その際にその作品の良さに注目させる。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付ける。 ・運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・易しい場を設定したり、用具や規則を工夫したりすることで、運動が苦手な児童でも楽しく運動に取り組めるようにする。 ・タブレットなどの ICT 機器を活用して動きを確認できるようにしたり、運動のポイントなどを示した連続図を視覚的に提示したりすることで、自己の課題を見付けられるようにする。 ・「体づくり運動」をはじめとした内容と、「心の健康と運動」「病気の予防の運動の効果」など運動領域と保健領域とを関連付けて指導するようにする。
<p>家庭科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。 ・家族の一員としての自分の成長を自覚し、家族の大切さや家庭生活が家族の協力によって成り立っていることに気付く。 ・生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践活動では、グループや二人組など友達との協力や教え合いを取り入れるとともに、丁寧に個別指導を続ける。 ・自分自身の成長は家族の理解や愛情に支えられていることに気付くことができるよう、第4学年までの学習を振り返る。 ・日常生活の中から問題を見いだして、課題を設定し、解決方法を考え、課題に向けた実践活動を行う。また、実践活動を評価・改善し、家庭や地域での実践につなげる。
<p>生活科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な活動や体験を通して、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、関り等に気づき、生活上必要な習慣や技能を身に付ける。 ・身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、意欲や自信をもって学んだりしようとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して自然に目を向けさせ、見る、聞く、触れる、探すなどによって自分との関わりを深めさせる。様々な体験を積み重ねることで知的好奇心や探求心などを育む。また、人との関わりの中で、ルールやマナーといった生活上必要な習慣や技能を身に付けさせる。 ・育てる活動や創り出す活動を通して、見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な体験をさせ、さらに自発的な活動へとつなげる。
<p>道徳科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を見つめ、物事を多角的・多面的に考える力を養う。 ・自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 ・思いやりの心をもって、生命を尊重しようとする子どもを育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の登場人物の心情と自分の関わりについて、多面的・多角的に考えられる発問を設定したり、友達と交流したりする場を多く設定する。 ・問題場面について、児童自身の考えの根拠を問う発問や、問題場面を実際の自分にあてはめて考えてみることを促す発問、または、問題解決のための役割演技を実演することによって、価値を実現させるための実践的な資質・能力を養う。 ・「親切、思いやり」「生命の尊さ」を重点項目とし、全校で一斉に取り組んだり、他教科との関連及び他学年との交流を計画的に取り入れられたりすることで、他を思いやる気持ちを育てていく。